

令和七年十二月十六日 第二十三号

まゆびと

岩國白蛇神社崇敬会会報

◎今年度に斎行された祭典・行事

【月次祭】四月～十一月(月一回)

※参列者の延べ人数は三百六十二名でした。

【四月】令和七年度

神社会計監査(十九日)・昭和祭(二十九日、十名)

【五月】

第十五回総代会(十七日、十四名)

【六月】

崇敬会会計監査(二十四日)

夏越の大祓(三十日、十六名)

【七月】

白蛇神社崇敬会役員会(五日、七名)

【八月】

大掃除(二日)・白蛇供養祭(十六日、二十五名) ※保存会主催

【十月】

マウス供養祭(四日) ※保存会主催
岩國白蛇保存会設立七十年記念奉告祭
神宮神嘗奉祝祭(十七日)

【十一月】

明治祭(三日、十七名)・新嘗祭(二十三日、六名)

【十二月】 予定
大掃除(七日)・例祭(十六日)
年越の大祓(三十一日)
【二月】
歳旦祭(一日)・元始祭(三日)
【三月】
節分祭(三日)・紀元節祭(十一日)
祈年祭(十七日)・天長祭(二十三日)

【御鎮座十四年祭について】



平成二十四年十二月十六日に御鎮座大祭を斎行してより二度目の巳年を迎へた今年は初詣から年末の今まで多数の参詣を頂き、感謝をいたして居ります。

十四年祭を迎へるにあたり、これまで以上に岩国の新たな名所として、一層の御祭神の御神威を得るべく、祭祀の厳修と神域の浄化に努める所存です。

◎来年度(令和八年度) 予定

【四月】
昭和祭(二十九日)・会計監査(未定)
【五月】
総代会(未定)

■令和八年の月次祭

《丙午》ひのえうま 九時半より

【一月】七日(水)・三十一日(土)
【二月】十二日(水)・二十四日(火)
【三月】八日(日)・二十日(金)
【四月】一日(水)・二十五日(土)
【五月】七日(木)・三十一日(日)
【六月】十二日(金)・二十四日(水)
【七月】六日(月)・三十日(木)
【八月】十一日(火)・二十三日(日)
【九月】四日(金)・二十八日(月)

【六月】
夏越の大祓(三十日)・崇敬会会計監査(未定)
【七月】
七夕祭・崇敬会役員会(未定)
【八月】
大掃除(九日)
白蛇供養祭(十六日)
【十月】
マウス供養祭(十日)・神宮神嘗奉祝祭(十七日)
【十一月】
明治祭(三日)・新嘗祭(二十三日)
【十二月】
大掃除(六日)・例祭(十六日)
年越の大祓(三十一日)
【一月】
歳旦祭(一日)・元始祭(三日)
【二月】
節分祭(三日)・紀元節祭(十一日)
祈年祭(十七日)・天長祭(二十三日)

【十月】十日（土）・二十二日（木）
【十一月】十五日（日）・二十七日（金）
【十二月】九日（水）・二十一日（月）

※巳の日が三度ある月は、月初めと月末の巳の日が月次祭となります。

※十一月三日は明治祭のみを斎行し、月次祭は十五日・二十七日となります。

令和八年厄年表（数へ年）

【男性】

本厄	二十五歳（平成十四年生）
	四十二歳（昭和六十年生）
	六十一歳（昭和四十一年生）

【女性】

本厄	十九歳（平成二十年生）
	三十三歳（平成六年生）
	三十七歳（平成二年生）

当神社での厄祓祈願を希望される方は事前に御予約をお願い致します。

祈願された方には、祈禱した木札と御守・御神酒等の撒饌が授与されます。

【崇敬会会員継続のお願い】

来年度（令和八年度）の会員継続の方のために払込取扱票を同封しましたので、宜しく願ひ致します。

なお、会費の納入については、社務所でも承つてをります。

また、山口銀行への振込もできますのでご利用ください。ただ、その時は神社までメールにて御氏名・振込内容をお知らせ願ひます。

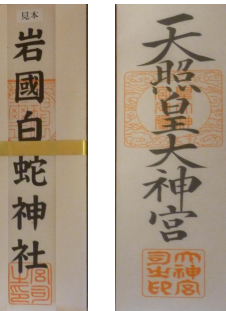
（メールアドレス）jinja@shirohebi.com

「新しい御札をお祀りしませう」

新年を迎へるにあたり、神棚を清め、新たに受けられた御札をお祀りします。新しい御札には、この一年をお守りいただく御神霊の力が宿されてゐます。

お伊勢さまの御札（神宮大麻）を受けられる方はお申し出ください。

今年までお祀りしてゐた御札は、過ぎし一年が無事に過ごせたことに感謝し神社に納めます。社務所には一月八日までに御持参ください。お祓ひの後に、錦帯橋河原で行はれる「とんど祭」にて、お焚きあげします。



神宮の御札と当社の御札を一緒に祀りすることをお勧めします。

【令和七年度崇敬会役員会】

七月六日（土）

六月二十五日崇敬会の監事であるお二方に令和六年度の崇敬会の会計監査をお願いしました。出納簿・関係諸帳簿・領収書・預金通帳等の監査をして頂きました。その結果、いづれも誤りのないことを確認し、七月五日の役員会にて報告して貰ひました。

した。

また、今年度の事業として、神社への寄進は「昭和天皇の御製」となりました。本年令和七年が昭和改元から百年、戦後八十年の節目にあたり、また、現在の世界の不安定な情勢をみるに、今こそ昭和天皇の恒久平和を願ふ大御心にふれることのできる昭和二十年に詠まれた御製が最も相応しいと考へました。

御製

身はいかになるとも戦とどめたり
ただたほれゆく民をおもひて

本年巳年の十二月末に完成予定です

【令和6年度崇敬会収支決算書】

《歳入》・振替入金額	¥ 754,868
・預金入金額	¥ 487,000
・前年度繰越	¥ 739,904
合 計	¥ 2,039,866
《歳出》・振替手数料	¥ 27,585
・郵送関係費	¥ 106,592
・会議費	¥ 21,708
・会報等印刷費	¥ 25,255
・寄進（幟旗等）費	¥ 606,895
・奉納絵馬関係費	¥ 200,000
・事務費	¥ 14,080
・寄附広告費	¥ 5,000
合 計	¥ 1,161,832

◎ 会員数・三九六名 令和七年十一月末現在

（三七三個人と二三団体）

《白蛇にまつわる思い出》紹介

『地域に広がる白蛇の和(二)』

幸田禎浩 著 (前白蛇保存会副会長)

また、前述の夏の慰霊盆踊大会で大鼓と音頭を受け持っているのが「岩国音頭白蛇会」である。岩国音頭の伝統を藤岡重定・藤村助雄・豊岡ヤス子などの大先輩より引き継いで、後世に継承しようと始まった会で、十数名が頑張っている。時には遠方の盆踊りの会にまで今津婦人部と一緒にお手伝いに行くこともある。



岩国音頭白蛇会の皆さん

白蛇のおそらく発祥の地であるう八百新酒造(株)は「白蛇」というお酒を販売している。白蛇が潜んでいた米倉の米で作った、少々辛口のみ

味しい日本酒である。

庄巻は、毎年十月の第三日曜日に行われる岩国祭の中の「白蛇御神幸」であろう。

駅前商連の若衆連中や子どもたちが大小それぞれ二頭づつを担いで歩行者天国となった駅前大通りを練り歩く。その後を我々今津山手商工連盟と保存会が神輿をお守りして行列をつくり、ミス岩国三人が巫女となり、御霊が入っている神輿を拝んでいる観客の皆さんを御幣で清めて下さる。そして、「白蛇のお札」を受けてもらい、お賽銭もお納めいただく。

く。この大事業も二十数年間続いている。

平成十五年に亡くなられた白蛇保存会元常務理事の門田栄さんが岩国高校野球部の戦後の生みの親であることはあまりにも有名な話である。

その岩国高校が平成十五年の夏の甲子園で春の選抜優勝校「広陵高校」を破り、ベスト八に進出。一躍「岩国」の名前を日本津々浦々に知らしめた。そして、平成十六年の夏もまた山口県代表として連続出場を果たした。

この時甲子園での試合に臨み、真新しいユニホームが選手諸君に手渡されたのを見、ふとおもった。

岩国高校のユニホームは「白いアンダーシャツとストッキングは白蛇の白色。帽子Iと胸のIwakuniマークは白蛇の目の紅色」。まさに縁起のよい白蛇にあやかっただけであると・・・。「続く」



岩国高等学校の校舎全景

【社報で推薦した図書一覧】

令和七年七月・令和七年十二月号

○『オオカミは大神』 狼像をめぐる旅

青柳健二 著、イカロス出版

○『戦前の日本人』

武田知弘 著、宝島新書

○『本居宣長』

仙崎彰容 著、新潮選書

○『世界の秩序が変わるとき』

齋藤ジン 著、文春新書

○『第二次大戦・独裁者の狡猾』

福井義高・渡辺惣樹 著、ビジネス社

○『大統領に告ぐ』

門田隆将 著、産経新聞

○『日本人なら知っておきたい日本の神話九選』

後藤俊彦 著、致知出版

古い御札・お守りのお焚き上げを希望される方は一月八日までに社務所までご持参ください。尚、正月飾りの橙(ダイダイ)は取り外してください。



神宮カレンダー



◎皇室カレンダー 1200円
◎伊勢の神宮カレンダー 900円
※社務所にて授与してあります。

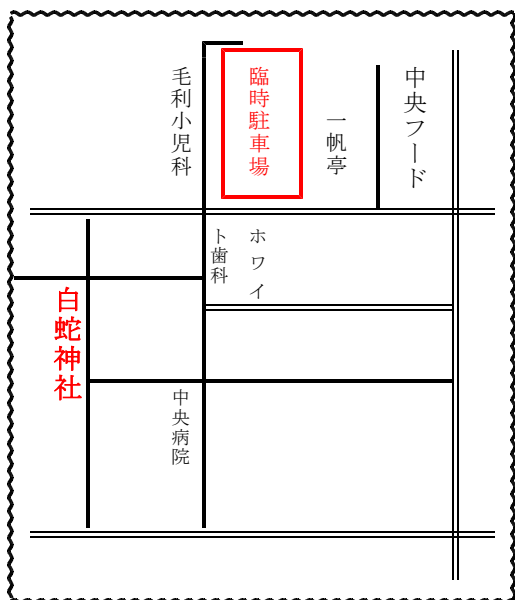
◎令和八年のカレンダーを授与してあります。



〈14.5 cm × 10 cm〉

参拝記念画

「巳年を記念して」
本年巳年を記念して三桝先生の参拝記念画第五弾が社務所にて一幅二千元で授与されてゐます。限定五十幅で全てオリジナルです。

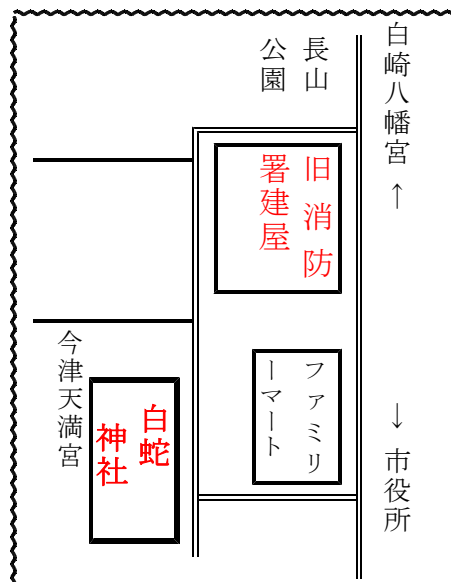


麻里布小学校

毛利小児科の隣

初詣のための
「臨時駐車場の案内」
〈元旦から4日まで〉麻里布小学校
一月元日から四日まで麻里布小学校の校庭と毛利小児科院隣が臨時の駐車場となります。小学校は約七百メートルの徒歩となりますが、ご利用のほどお願い致します。

【令和七年巳年を終るにあたり】
今年の初詣には各地より数多の方々がお参りくださいました。一月だけでも十万人の参詣があつたのではないでせうか。改めて御祭神の御神慮と、有難く感謝の祈りを捧げる次第であります。
当社は平成二十四年の創建から十三周年を迎えました。御祭神を勧請いただいた厳島神社をはじめ、今津地域住民の御協力と山口県神社庁岩国支部神職の全面的な御支援には改めて深く感謝を申しあげる次第であります。
また、江戸期から岩国白蛇を神々のお使いとした信仰を三百年を通して維持継続できたことへの誇りを堅持しつつ、新たに当神社がより多くの方々に感謝と祈りの場となり、親しみと癒しの『こころの母港』となることを念願し、希望ある新しき年を迎へたく思ひます。 宮司・平田光寛 拝



令和八年三月までの臨時駐車場
旧消防署建屋周辺